

“医信同源”の診療所(後編)

あまのずの9
ダイアログ



普門院診療所



飯島○以前拝読した先生の玉稿に「生と死が手を結ぶには、病院のグリーンフケアカンファレンス(大切な人を亡くした悲嘆のケアに関する会議・打ち合わせ)に患者の菩提寺の住職を呼ぶことから始めることも可能だと思えます」と書いておられました。そのような形で、仏教者が「苦の現場のケアスタッフの一員である」という意識を持ち、菩提寺と檀家という関係を超えて、人間対人間のおつきあいが始まるのではないかと思います。

私が緩和ケア病棟で働いていたときにも、同じようなことを考え、「菩提寺のご住職をお呼びして話をしていただけだ」と考えましたが、実現はできませんでしたが、ですから、実現できたら、緩和ケア・スピリチュアルケアの

現場に於いて、医療サイドに於いても、仏教サイドに於いても大きな変化に繋がるのではないかと思います。普門院診療所様にて、このような形でカンファレンスがおこなわれたことがありましたら、お話ししたいと思っています。

田中○患者が入院したら菩提寺に連絡をして、将来葬儀を担当することになる僧侶に御見舞に来てもらう、これが本来あるべき病院と菩提寺の関係だと思っています。しかし、現在日本の僧侶は寺院に引きこもっていて、その実現が難しい状況です。私は平成8年に、老

写真右:
普門院診療所内の
リハビリ施設



写真下:
通所介護事業所「中善坊」

人保健施設「看清坊」を作ったときに、まず老健に来て貰うことから医療と菩提寺の連携を始めようと考えました。そして看清坊の落成式に宗教関係者を招待しました。その時の案内状に「檀家さんや信徒さんが入所された時には、本人あるいは保護者の同意を得て、入所された旨を連絡させて頂きたいと思っています——限られた命を生きる宗教的な支えを、貴社社教会等でのみならず、老健施設看清坊に Outreach 行つて頂けますようお願い申し上げます」と書きました。

そして入所面接時に書面で菩提寺と、その連絡の可否を聞く

